

国立大学法人豊橋技術科学大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

豊橋技術科学大学は、技術科学に関する教育と研究を通して社会に貢献することを使命とし、主に高等専門学校（以下「高専」という。）卒業生を受け入れ、豊かな人間性と国際的視野を持つ実践的創造的かつ指導的技術者を養成するとともに、国際競争力のある先端技術の開発研究を推進し、我が国の社会、特に産業界の活力の創出に貢献することを目指している。第2期中期目標期間においては、大学入学者の大半を占める高専卒業生の教育の強化のため大学院教育に重点を置き、レベルの高い基礎科学・教養教育とその上に立った実践的専門・技術教育を交互に進める「らせん型」教育を学部・大学院一貫で実施すること等を目指している。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、英語学習アドバイザーの配置、e-learning、実地での英会話講座等、学生のみではなく教職員もサポート対象とした、多面的な展開による英語力強化のための総合的な支援活動を実施しているほか、新たに公立3高専との教育研究交流に関する協定を締結するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（戦略的・意欲的な計画の状況）

第2期中期目標期間において、次のような戦略的・意欲的な計画を定めて、積極的に取り組んでいる。

- 世界で活躍し、イノベーションを起こす実践的技術者の育成を目指し、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、国立高等専門学校機構の3機関が連携して教育改革を推進する計画を定めており、平成26年度においては、マレーシアとベトナムを会場に、3機関合同の海外同窓生交流会（同窓会）を開催し、3機関の連携による海外の人的ネットワークの構築を開始している。さらに、教員グローバル人材育成力強化プログラムの本格実施により教員の英語による教授法向上を図るとともに、タイ及びメキシコに現地事務所を設置し、コーディネーターを配置し海外の実務訓練先を17社開拓するなど、実践的技術者育成を進めている。
- 高専生及び世界の若者を受け入れ、技術科学で次の時代を切り拓き、世界で活躍できる上級技術者を養成するため、「グローバル技術科学アーキテクト養成コース」の設置や、授業科目のバイリンガル化等を推進する計画（平成26年度に中期計画を変更）を定めており、平成26年度においては、海外の高校生や保護者・教師から見たコース設計と入試内容の検証を行うとともに、魅力ある留学先として選ばれるために必要な条件や情報の収集を開始している。

（機能強化に向けた取組状況）

学長直轄の「戦略分析室」を設置し、既存の「研究推進アドミニストレーションセンター」等と連携させるなど、IR（Institutional Research）体制を充実させているほか、世界の技術科学を先導する高度技術者「グローバル技術科学アーキテクト」を養成する、国際通用性が高い「多文化共生・グローバルキャンパス」の実現を目指し、グローバル技術科学アーキテクト養成コースの新設及び多様な価値観の学生・教職員が共生するグローバル宿舎の新設、重層的な人材循環の強化を図っている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ IR活動による国際競争力向上の推進

新たに設置した戦略分析室において、「研究推進アドミニストレーションセンター」等とも連携しながら、既存データの見える化及び大学機能強化への活用等の IR 活動を開始し、研究戦略企画会議等において大学の現状等を説明・共有することで研究等の国際的な競争力向上への意識改革を図っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の安定的確保、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 3 機関連携による経費削減

平成 26 年度から本格運用を開始した GI-net (グローバル・イノベーションネットワーク) により、3 機関 (長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、国立高等専門学校機構) の TV 会議・講義等において多地点接続を 725 回、双方向利用会議等を 758 回実施し、旅費や会議費の節減が図られている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 積極的なオープンキャンパス

オープンキャンパスを地域連携の一つと位置付け、受験生のみならず、広く一般市民に大学を公開することで過去最高来場者数の 2,630 名が参加しているほか、高専生及び高校生を対象にした研究室見学(ラボツアー)については、模擬授業を加えるなど、内容を充実することで対前年度比 2 倍以上の約 1,200 人が参加している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ セキュリティ対策の強化と職員の意識向上

情報セキュリティ担当の教員が、セミナー等に参加して最新のサイバー攻撃及びその対策方法について調査するとともに、情報セキュリティに関する小テスト及び情報セキュリティポリシー自己点検を実施し、ネットワークセキュリティ対策の確認と注意喚起を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 英語力強化に向けた多面的な支援

英語学習アドバイザーの配置、e-learning、実地での英会話講座等、学生のみではなく教職員もサポート対象とした、多面的な展開による英語力強化のための総合的な支援活動を実施している。

○ 学習支援体制の充実

「学習サポートルーム」において、従来の数学、物理、化学に加え、その他の科目の相談についても対応するとともに、授業担当教員との連携を強化するため、サポート科目である数学等の授業担当教員研究室の大学院学生の中からアシスタントを選出

するなど、運用及び体制を改善している。

○ **高等専門学校とのさらなる連携強化**

包括協定を締結している東海地区5高専との連携協議会を開催し、教育研究内容の報告や情報系分野における実験方法等について協議しているほか、新たに公立3高専（東京都立産業技術高等専門学校、大阪府立大学工業高等専門学校、神戸市立工業高等専門学校）との教育研究交流に関する協定を締結し、共同研究の実施、教員の人事交流、教員研修への参加等について検討している。